

静岡市食の安全・安心意見交換会についてのアンケート（静岡市）

- 傍聴者 14 人 - 平成 20 年 2 月 21 日(木)

= ご意見・ご要望 =

- 食の安全・安心意見交換会、これで終わらないで静岡市から変えていこう。地産地消、私は日頃自分の地域の無人販売でいつも買っています。季節を感じることもでき、又、農家の方の顔が見え品物を手にした時に、安全・安心、そして家族の健康にもつながると思い、料理に使用する材料を大切に使っています。

大根を買った時も農家の方から「葉っぱも食べてね」と一声、一品食べ方を教えて頂き、いつも感謝の気持ちで捨てることもなく、エコにも役立っていると思います。残った野菜は、できるだけ天日に干して次回に使用することも心がけています。

特に、行政の方へお願いします。

本気で、静岡市から変えてください。消費者もいっしょに頑張りましょう。

今日は、ありがとうございました。

- 中国の食品の問題等を考えても、地産地消をもっと推進していくべきであると考えます。

特に日本は、食品自給率が低すぎるのではないのでしょうか。いろいろな問題はあると思いますが、まず、学校給食で推進し、農家の人々の安定をはかる事を進めて、自給率を高めていくのはどうでしょうか。

遠くからの輸送にかかる CO₂消費量における問題についても、積極的にアピールして、消費者の理解を得ていく事も必要だと思います。

今回の中国の食品問題はその意味では、非常に消費者が見直すよい機会であるし、現実的にかなり変化してきていると思います。

子供や保護者に対して、食べ物を大切にする、作ってくださる方々に感謝する、という意味でも、親子農業体験や漁業体験は有意義であると思います。その折に、旧清水市は学校給食が自校式でしたので、その設備が非常に役立つと思います。是非活用して頂きたいと考えます。清水区では、このような意見が多数出ております。

- 地産地消のイベント、年間計画表どこにありますか。日時、場所、概要がのっているものです。

食料について、全地球的には、将来相当不足し、死者、難民、栄養失調など大変大きな問題が起きると聞いております。温暖化どころではないでしょう。恐らく、戦争が起きるではともいわれています。米国の遺伝子組み換え穀物で収穫を上げないと、不足します。日本だけ避けることはできませんが、どうでしょうか。各国が自国の特長を生かし助け合うことが、必要でしょう。（20～50年後に向けて）。

10年先位迄は、本日のテーマは必要最適と思います。

「究極的省エネは、人間の体を今の半分にすると食料危機も省エネ、温暖化もOK」という大学の先生の記事を見ました。なるほどです。そういう面では、米国をはじめ生活レベルの高い方の国が問題です。日本はできることから、肥満をなくす国民運動はどうですか。

人権などとは言うことができなくなる前に、健康で長生きのためにも肥満はやめましょう。体質改善を、食事制限が全地球、国、個人にも効果的です。

食品メーカー、高級料亭など（特に、中小のオーナー企業）従業員教育より経営者教育を。

中間幹部の見てみないふり、責任、罰則に値するようにします。

静岡おでん盛況でVGでした。但し80～100円は高いです。お土産に家に持って帰ったら、私が作れば1ヶ10～20円でできるとのことです。

- 生産者は、自分の住所、氏名を印刷した名刺サイズの「生産者カード」を出荷時に1ケース毎に添付します。

青果市場では、大型店でも個人の青果店でも、仕入れた農産物が、どこの誰の物かすぐにわかります。また、青果市場では、残留農薬検査を抜き取りで実施しています。（安全の根拠となります。）

青果店、スーパーでは、消費者への販売時に生産者情報に加えて、農産物の氏名、育ち、美味しい食べ方や機能性の情報も付加して提供します。

青果物の安全、安心、安定を目指して上記の事業を行っています。三島市場では、90%の地場産品に「生産者カード」が入っています。静岡市中央卸売市場でも「生産者カード」入りの出荷物が増えて来ました。

富士市では、納入業者（青果店）と全学校の栄養士が集まり、地場物のおいしい時期や、その他の情報を交換し、要望をぶつけ合っています。これによって地物利用が増えました。

静岡青果物商業（協）杉山

- 食の安全、安心は、これから食べ物を商売にする人々に大変重たいかせになってしまったのですね！大塚委員もおっしゃっていましたが、本来の仕事に影響のでるくらい、悩みの種になっている人がどのくらいいるのか。小さな店に成るほど、多いのではないのでしょうか。昔と違って夢のない。

消費者がどれだけ食べ物を理解しているのか。

受験よりも大切な食べる事に対して、どの程度、力をいれていくのか。

どこまで表示しなければならないのか。その表示を消費者はどれだけ理解できるのか（使用２度目）。

- 傍聴席から一言です。

テーマがすばらしくて参加しました。委員の方々をはじめ出席者も多数なので、各人が意見を言った場合は、時間的に無理だと思いますが、顔と名前が見えないので、椅子、机の配置を考慮して貰いたいです。誰が何を言いたいか、言っているのか、顔を見て話を聞きたいと思いました。折角、立派な方が出席しているのだから。

第２部の意見交換会が、机上の空論（失礼）から現実に戻された会議だと感じました。座長様、ご苦労さまでした。

- 第１部 アクションプラン（案）について

食の安全・安心のアクションプランについての討議は、（案）作成のプロセスで十分討議してあるでしょうから、この場では意見と言われてもやや表面的（形式的）になり易いです。

（案）とは言え、完全な形の印刷物で、出来上がっては・・・・

印刷製本以前に、白熱した討議を期待したいです。この場ではむしろ（案）の解説にしたらどうですか。（案）はよく練られていて、すべて網羅されており、完璧に近いです。よく出来ています。

今後、広く市民一般への周知浸透が重要です。

第２部 意見交換テーマ「顔の見える食品の提供」について

委員の素直な（生の）意見が活発に出されてよかったです。「地産地消の推進」は、今や当然（常識の段階）のことです。推進障害になっていること、困難なことを具体的に挙げてみてはどうですか。

（資料）とてもよく出来ています。有益な情報です。

「援農ボランティア」 Good idea ありがとうございます。

「総論」なく「実践例」を、COOP の小林さんの具体例はよい事例です。